

家族の声に、耳を澄ます

— 若年性認知症(前頭側頭型)
支援の本質をもう一度考える —

令和8年2月17日(火)

新関 英子

今日お話しすること

- 若年性認知症の気づきにくさ
- 家族が直面した困難
- 支援に何が必要だったのか

I 若年性認知症の特徴

- ✓ 働き盛りの世代で発症する
 - ✓ 本人に病識が乏しい場合が多い
 - ✓ 制度や支援が高齢者前提
-
- → 困りごとが見えにくい

家族の紹介(概要)

現在、夫婦・現在二人暮らし

- 夫：若年性認知症(前頭側頭型・意味性認知症)
- 妻：就労中(医療介護)
- 子ども：県外在住

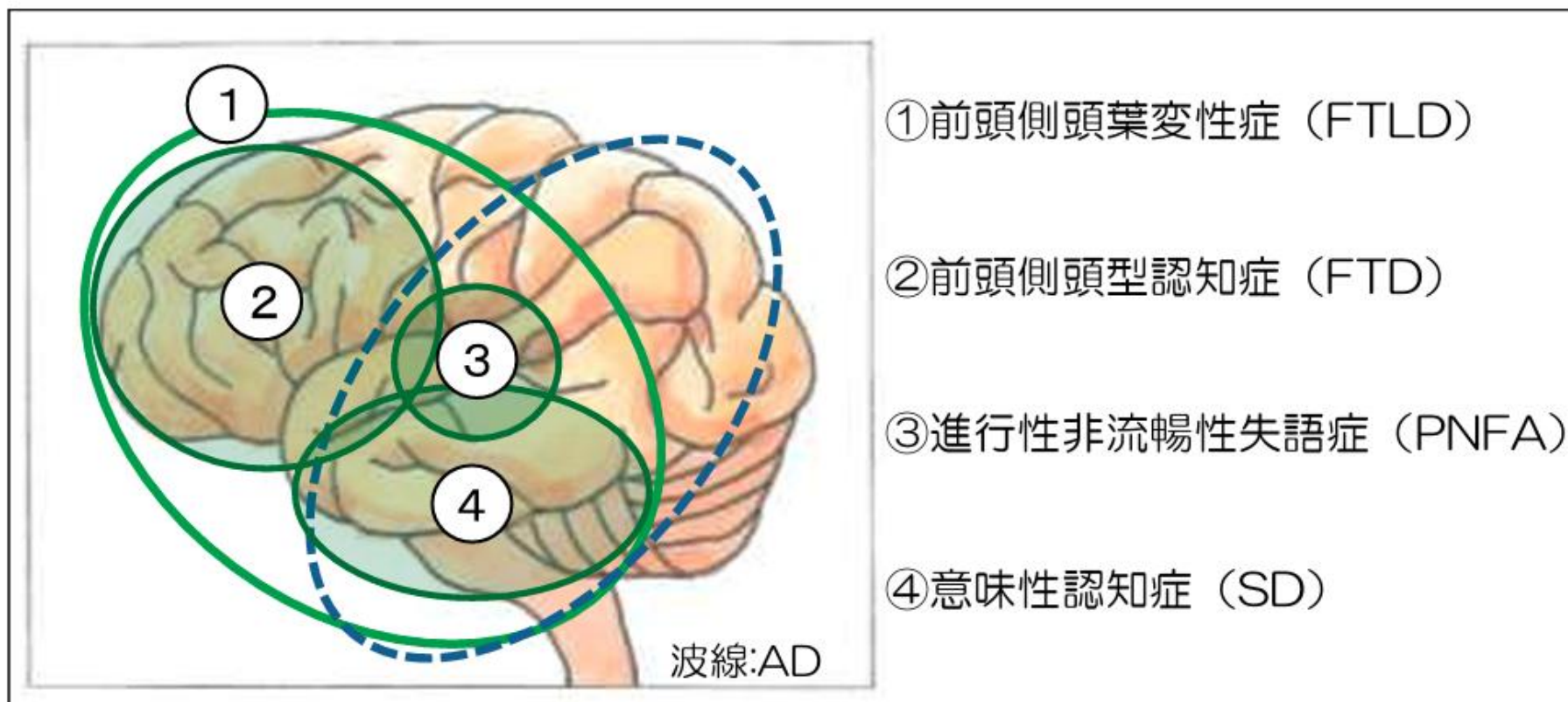


図 1. 前頭側頭葉変性症の概念

(大阪市)認知症の医療・介護に関わる専門職のための
「前頭側頭型認知症 & 意味性認知症」こんなときどうする！令和 2 年 3 月 保存版

Ⅱ 「あれ？」と思い始めた頃

～違和感があったが、病気とは思えなかった頃～

- 『性格？更年期？ストレス？』
病気と結びつかない
- 性格や行動の変化に家族が戸惑う
- 生活の中での違和感

気づきにくい初期の変化

～「あれ？」と思い始めた頃～

- 退職後、転職を繰り返す
- 怒りっぽさ、待てない
- 家族や職場は病気と考えない

Ⅲ 診断がついても、 生活は楽にならなかった

～診断がついても、支援はすぐには始まらない～

- 診断がついても生活は変わらない
- 本人に病識がない
- 家族だけが現実には直面する

制度が合わない現実

～診断がついても、支援はすぐには始まらない～

- 高齢者前提の制度
- 就労・免許・生活調整が難しい
- 家族が説明役・調整役になる

IV「本人は変わらない。 でも、生活は回らなくなる」

～生活・就労・安全・将来への不安～

- 就労・社会参加
- 運転・移動
- 食事・生活習慣
- 行動・こだわり
- 家族の心身負担

どうなっていくのだろうと
不安があります

V 支援が「点」から「線」になったとき

～つながったことで、少し楽になった～

- 就労支援事業所との事前共有
- 医師・家族・支援者の情報共有
- 「困ったら相談していい」と思えた

VI 支援者へ伝えたいこと

- 家族は支援を拒んでいない
- 今動けている時期からの支援
- 話を聴いてもらえる安心

VII まとめ

- 若年性認知症は気づきにくい
- 家族の負担は大きい
- 支援は早期・継続・連携・そして「場」があることが鍵

今日の話が、
「家族は、分かってもらえないまま
頑張っていることがある」と、
心に留めていただく
きっかけになれば幸いです